

OS
交配

ブルームレス台木用南瓜 — OSキュウリにピッタリフィット

EXCITE

エキサイト一輝



きわだつ色ツヤ

スタミナで差がでる!

特 性

— 夢に向かって真っしぐら —

- 全作型に好適。
- 寒、暑、乾、湿やウドンコ病などにも強い超能力台木。
- 頑強な根群でスタミナ抜群。
- 果の肥大と茎葉の成育バランスが絶妙で秀品多収穫とおいしさを合わせ持つ。



栽培ポイント

- キュウリ全品種、全国、全作型に適します。
- 種子は1袋350粒詰めで、OS交配キュウリ種子と同じ袋数で御利用いただけます。

育苗

○播種

・キュウリと同時か1～2日遅く蒔きます。

床土のEC0.8位・PH6.0位	
床土1トン(4寸鉢1000ヶ)	
チッソ	300g
リンサン	1000g
カリ	200g

○床土は6cm位の厚さ、黒ダネ、ウルトラ台木同様播種間隔を広くして下さい。

種子は水に浸したり、濡らさずに乾いたまま播種して下さい。覆土は種子が見えなくなる位、適湿を保ち過湿にならぬよう注意下さい。排水、保水の良い土に灌水し、その上に新聞紙をマルチすると良い条件が保てます。

○発芽適地温は昼夜とも28℃位です。

発芽後は徒長しないように速やかに新聞紙マルチを除き陽焼けに注意しながら陽光に当てて下さい。

冬期は発芽が揃ったら夜の地温を25℃→20℃へ、夜の気温も18℃→13℃へと徐々に下げます。

○接木は室温18℃以上で呼び接木やさし接木、また鉢やベットの居接木等いずれの方法でも結構です。

○接木後の管理は他の台木と同様です。

短日の冬期は昼(28℃位)、夜(22℃位)の高気温と最低23℃位の地温で活着を促します。活着後は徐々に気温(夜間12℃位まで)、地温(夜間19℃位)を下げ、土壌水分も控え目に茎葉と根の充実をはかります。徒長し易い時期や大苗育苗では途中から鉢間隔を広げて下さい。

●作型別育苗日数と苗令及び植付数

作型	育苗日数と苗令	植付本数 (3.3㎡あたり)
ハウス抑制	直播～20日(本葉2.5枚以内)	4～4.5本
ハウス晩抑制	20日～25日(本葉3枚位)	4～4.5本
ハウス越冬	25日～30日(本葉3～4枚位)	4～4.5本
ハウス促成	30日位(本葉2.5～3枚位)	4.5本
ハウス半促成	35日位(本葉3枚位)	4.5～5本
ハウス雨除け	直播～30日位(本葉3枚以内)	4～4.5本
露地トンネル	30日～35日位(本葉3～3.5枚位)	4～4.5本
露地夏秋	直播～30日位(本葉3枚位)	3～4本
露地抑制	直播～20日位(本葉2.5枚以内)	4～5本

定植

- 元肥は堆肥やボカシ肥等有機物主体に充分施します。
- ベットの作る前に土中水分が飽和状態になる位灌水します。
- なま乾きで耕起やベット作りをするとゴロ土となります。

○冬期では地温を高め、ポリマルチングはもとより定植数日前からハウスを密閉し、1～2日前から暖房もして朝の地温を20℃位確保してから定植となります。

○活着までは昼夜とも高温(日中30℃位、夜間15℃位)多湿に管理します。

○別表苗令が適期ですが頭寒足熱で順化をすすめ根が張り鉢土くずれのない苗が適期です。

活着以降

○短日時期では活着(本葉7枚位)後は徒長せぬように、曇天の午後や夕方の気温を下げ、夜温も13℃位まで下げます。9月～12月の短日時期で暖かい日や、節間が伸び過ぎるときは天窓やカーテンはゆっくり閉めます。

○活着以降、必要以上の蒸し込みはさけます。

○冬、春期のわか晴れや風の吹く乾いた日中は湿度保持に努め、都合で通路散水をします。

○灌水や追肥は、少量ずつ回数で補います。

●ハウスでの温度管理の目安

秋冬低短日・地温期の	時間	晴	天	曇・雨天
	日中	朝の18℃から上がって28℃～30℃		20℃
午後	昼の28℃から下げて25℃～20℃へ		18℃～15℃へ	
	夕方	18℃から徐々に下げて15℃～13℃へ		12℃～13℃
夜	草勢や朝の地温によって12℃～14℃		11℃～12℃	
春	日中	朝の18℃から上げて26℃～28℃		20℃
	午後	昼の26℃から下げて23℃～20℃へ		18℃
	夕方	18℃から徐々に下げて15℃へ		15℃
	夜	草勢や天候によって10℃～16℃		10℃～13℃

※暖かい日は、低目、寒い日は、高目にします。

※二層カーテンハウスは夕方を低目にします。

※暗い曇・雨天の午後は低目にします。

整枝

○下節位の子枝はベットより25cm位、主枝の果は7～8節位迄、早目に摘除します。

○ベットから50cm位までの子・孫枝はかならず1節摘芯にします。

○貝ワレ葉は本葉12枚位のとき摘除します。

○9月～2月の間に収穫の始まる作型では中～上節位の子枝も1節摘芯が収量構成を安定させ秀品率も高め、総収量も多くします。

○草勢や作型によって中～上節位の一部の子・孫枝を半放任、誘引して伸長葉にすると草勢維持にプラスします。

◎作型や品種を越えて出来すぎ、過繁茂はいけません。あまり大葉や徒長せぬようにして摘芯、半放任、摘葉を生育ステージや草勢によって繰り返して込みすぎず、すきすぎないことがポイントです。

◎4月～7月の長日、強光で紫外線の強い日中はカーテンで日除けすると茎葉の老化が防げます。